

今後の「広報」の取り組みについて

吉川 浩²⁾, 吉川 潤²⁾, 東 沙耶²⁾

高口 智美²⁾, 佐久間 有希²⁾, 角鹿 千枝²⁾, 更科 高広²⁾

1) 北海道大学 総務企画部情報企画課

About an approach of the future "public information"

Hiroshi Yoshikawa¹⁾, Jun Yoshikawa¹⁾, Saya Azuma¹⁾

Tomomi Takaguchi¹⁾, Yuki Sakuma¹⁾, Chie Tsunoka¹⁾, Takahiro Sarashina¹⁾

1) ICT Planning Division General Affairs Planning Department, Hokkaido Univ.

概要

北海道大学情報基盤センターではこれまで数多くの広報誌を出版してきた。近年発行している広報誌「iiC-HPC」は一定の評価を得ているものの、大学全体で求められるペーパーレス化への対応も必要であり、Web ベースによる新たな広報の取り組みについて紹介する。

1 はじめに

国立大学法人においては、中期目標として達成すべき事項とその成果を検証及び評価する制度が取られている。

各部局においても同様で、北海道大学情報基盤センター（以下、本センターという）でも中期目標とその成果を評価している。

本稿においてはこの成果を「広報」という視点で検証してみた。

2 広報の変遷

本センターの前身である 1962 年に発足した大型計算機センターの時代から、残存する資料を確認すると、1969 年に発行した「大型計算機センターニュース」が広報誌としての初稿とみられる。

(図 1)



図 1 「大型計算機センターニュース」表紙

この広報誌は既サービス利用者向けで、大型計算機システムの利用を始めたユーザ、もしくはある程度システムを利用に慣れた方向けに Fortran 等を利用したテクニックが中心に構成されている。

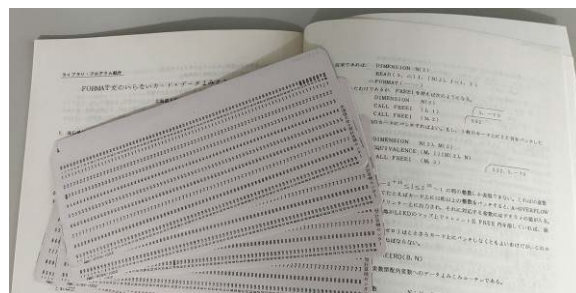


図 2 「大型計算機センターニュース」記事及び当時利用されていたパンチカード

また、1978 年には「テクニカルレポート」も「大型計算機センターニュース」と並行し創刊された。

(図 3)



図 3 「テクニカルレポート」

研究開発活動成果の総合的報告を目指すとして
いるが、内容は「大型計算機センターニュース」
同様、大型計算機を利用したプログラムに関する
ものの他、既設設備である図形処理システムの利用
方法といった利用者向けの案内が中心となっ
ている。(図4、図5)

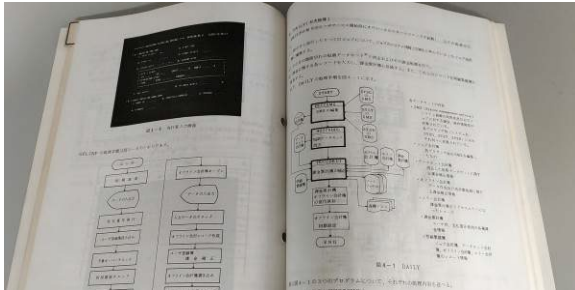


図4 テクニカルレポート
当時は VOS3 という汎用 OS が採用されていた

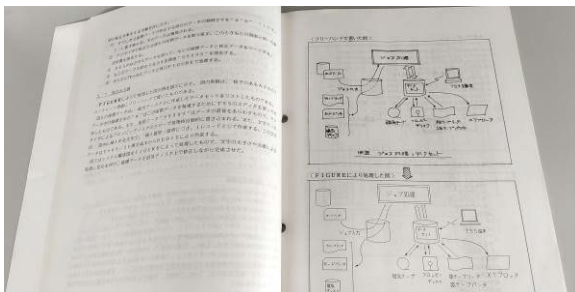


図5 テクニカルレポート
図形処理システム FIGURE に関する説明

一方、非ユーザ向けの広報としてはパンフレット
等があり写真等を含め、システム紹介が中心で
あるものの、比較的容易な言葉で万人向け要素を
含んだ内容として仕上げている。

このような広報を続けてきたが、2003年「大型
計算機センターニュース」は「iiC-HPC」として
リニューアルした。(図6)



図6 「iiC-HPC」

この広報誌は本センターのスーパーコンピュー

タやホスティングサーバ（現クラウドシステム）
を活用した研究者、本センター運用に携わってい
る教員及び利用者に対しインタビュー形式を採用
し、パンフレットよりも研究向けでありながら、
本センターのシステムをどのように活用されてい
るか、もしくは今後のセンターの展望等につい
て紹介した内容となり、読者層を広げることとな
った。

また、この広報誌は全面カラー印刷を採用し、
可視化システムなど視覚的な研究紹介等にも効果
的で、併せてセンターのイベント等も案内するこ
とで利用者増加の一役を担った。

3 コロナ禍での広報について

一方、近年のコロナ禍の影響により、インタビ
ュー等が行われない状況下となり、ここ数年は
iiC-HPC の年間発行回数が計画通りに進まない状
況となった。

広報が思うように進まない中、2021年2月に現
實金総長が学際大規模計算機システムの見学をご
希望されたことが、それ以降の広報のあり方を変
える転機となった。

システム見学では、スーパーコンピュータ及び
その冷却システムについて興味を持っていただき、
各種機器について熱心にご質問等いただいた。

(図7)

一通りの紹介が終了したのち、「iiC-HPC」を
お読みになられていること、加えて、このような
設備があることを大学関係者により知ってもら
うための見学といったことを積極的に続けた方がよ
いが、コロナ禍の状況なのでヴァーチャルツア
ー的な紹介を行ってみてはどうか、との提案を受け
た。



図7 實金総長による
学際大規模計算機システムの見学

4 360° 画像による学際システムの紹介

総長によるシステム見学後、棟朝センター長からの指示により、360° カメラを活用したヴァーチャルツアー的なものを Web で公開できないか事務方で検討することとなった。

当初は商用サービスの活用により 360° カメラで撮影した映像を公開する試行を行ったものの、直後この商用サービスは数か月後に終了する旨のアナウンスがあり、オンプレミスで稼働している本センターホームページで稼働させる方向となった。

360° 画像を Web で掲載するためのツールはいくつか見つかったが検証の結果一つを選定した。

また、撮影した画像は本学が包括契約を結んでいる Adobe 製品の Photoshop 等の活用により加工するとともに、システムの紹介文等の記載も検討した。

VR コンテンツの作成はもとより、360° カメラの操作が初めてだったこともあり、約 1 か月強を要し、現在公開しているコンテンツが完成した。(図 8)



図 8 学際大規模計算機システムを紹介した VR コンテンツ

5 「成果」を公開する広報

2003 年の iiC-HPC 発行、2020 年初頭からのコロナ禍による行動制限、そして 2021 年総長視察によるヴァーチャルツアーの提言等を経ると共に、大学全体に求められているペーパーレス化といった点を踏まえ、今年度に入り棟朝センター長から、学際大規模計算機システムだけではなく、本センター全体の活動をアピールすることを目的とし、

iiC-HPC に代わる Web マガジン発行の提言がなされた。

これはオンライン化の対応、スーパーコンピュータ及びクラウドシステムに限らず、セキュリティや教育 DX など、センター全体の研究分野を対象とした広報とすることを目的としている。

Web マガジンは本センター教員をはじめ研究者よりのインタビュー記事が中心となることから、10 月採用予定の部局 URA(リサーチ・アドミニストレーター)の協力を得て実施する予定である。

このインタビューには学際大規模計算機システム利用者のインタビューも含まれ、本システムを活用した成果公開をわかりやすく対外的にアピールする役割が期待される。

なお、このような広報とは別に、より短い間隔でタイムリーな情報発信は 1973 年頃に紙媒体で発行した「速報」から始まり、2003 年頃にメールマガジンへの移行が行われている。

棟朝センター長からはこの他にも情報基盤センターとして発行している各種広報においてもオンライン化と統合的な情報発信を目指す方針が示されている。

6 おわりに

初期に発行した広報誌はユーザの利用支援的な位置づけのものが多く、Linux を採用した計算機においては、ネット上でその操作方法が広く紹介されており、このような案内はマニュアルにシフトしつつある。

一方、「広報」においては部局の成果といった視点で見ると、総長及びセンター長が提言する「多くの方に幅広くセンターを知ってもらい、その活動を理解いただくこと」が今後より重要となることが考えられる。

こうした方針がより本センターにとって良い形で推移していくために尽力したい。

参考

- [1] 北海道大学情報基盤センター (2021 年)「学際大規模計算機システム 360VR」、URL: <https://www.iic.hokudai.ac.jp/vr/> (参照日: 2022 年 10 月 06 日)